



美郷町で描く私のライフデザイン

梶原 恵美子

(美郷町地域おこし協力隊)

1 教員退職期を目の前にして

2024年4月1日、美郷町地域おこし協力隊に「移住コンシェルジュ」として着任した私の前職は、東京の公立高校家庭科教員です。32年間、多くの先輩、同僚、生徒、保護者、そしてなにより健康に恵まれ、気が付けば定年が近づいていました。やりがいを感じながらも、退職後に多くの教員が経験する再任用職員ではなく、異なる分野に関わってみたいと以前から思っていました。忙しい毎日の中で「退職したらゆっくりしたい」「ていねいな暮らし方がしたい」と思いつつ、「教員以外に何ができるのだろうか」というのが本音で、そのような生活をするための方法を考えているうちに、時間だけが過ぎていきました。

2 地域おこし協力隊として郷里へ

退職後も東京に住み続ける明確な理由が無い私は、冬の雪に対する心配はあるものの、山に囲まれ田園風景が広がる郷里の美郷町で生活することを考え始めました。しかし、30年以上、町を離れていた私が住み続けることはできるのだろうか。そんなことを考えていた時に入ってきたのが協力隊募集の情報でした。けれども最初は関心がありませんでした。なぜなら、私自身が協力隊は若い世代が担うというイメージを持っていただけでなく、募集する町側もそれを期待していると思っていたからです。ところがよく調べると、応募条件に年齢制限はありませんでした。離れている間に合併した美郷町で再び生活し、生まれ育った場所に少しでも役に立

てたら自分の転機になるかもしれないと思い、思い切って応募することにしました。そして運よく内定をいただき、美郷町の協力隊第1号としての着任準備を始めました。

3 前職の経験が初事業へ

退職と着任(転職)、転居が決まり、それまでお世話になった方々に挨拶をしていた時、職場近くの調理師専門学校の方との会話で「これからもわたくし共でできることがあればお声がけください。実は最近、学生と北海道の中富良野町に行って、食を通じた試みに参加したところです。地方でもできることがいろいろあることを知りました」「まあそうだったんですね『あれ?中富良野町…どこかで聞いたような』」というようなやりとりがありました。偶然にも、美郷町と中富良野町はラベンダーのつながりで連携協力協定を結んでいたのです。また、この専門学校は地域の高校生と共同で食イベントを開催しており、勤務校でも数回参加していました。ただ、その時点では専門学校の方たちとその後の協力隊事業でつながるとは全く予想していませんでした。

4月に着任すると間もなく、町内唯一の高校である県立六郷高校の同窓会長から「学校運営協議会委員」の依頼をいただきました。教員を離れ、違う世界に飛び込もうとしていた私でしたが、お役に立てればと思い、引き受けることにしました。

そしてまたある日のこと、町長に「何かやってみたいことはあるか」と問われ、「これまでの

経験を活かそうなので、交流のあった調理師専門学校の方々が美郷町の関係人口として関わる機会を作りたい」と提案したところ関心を示していただきました。中富良野町での取り組みについても紹介したところ、状況を丁寧に把握し計画を進めるようアドバイスもいただきました。

次に二つの学校同士が協力し合う事業にするのはどうかと考え、当時の六郷高校の校長先生に高校生の参加をお願いしたところ快く受け入れてくださり、「教養コース家庭」（現在は募集停止）の生徒の皆さんが加わることになりました。スタートは順調です。

その頃、私は初めて美郷町ラベンダー園のラベンダーまつりに足を運び、手入れが行き届いた園内で、景観の美しさを楽しむだけでなく、摘み取り体験をする人や、買い物しながら談笑するグループ、こぐまちゃん号に乗って園内を巡る親子の表情の和やかさに、ラベンダー園の存在は町のかげがえのない財産であることを理解しました。中でも町のオリジナル品種であるホワイトラベンダー「美郷雪華」は、他のラベンダーよりも香りが淡く、優しい気持ちになれます。美郷雪華の香り成分を使用したルームフレグランスや酵母を使用した日本酒、味噌などは以前から利用していましたが、園内に広が

るラベンダーを見た途端に、それまでとは違ったイメージを持ちました。

事業の構想を練りながら試行錯誤した結果、美郷雪華の香りを食品に利用するには「シロップ」にするのが良いと考え、ご縁が繋がった六郷高校と調理師専門学校のご協力により美郷雪華を使用したカフェメニュー（スイーツ）が実現しました。協力隊になり、仕事環境を変えたいと思っていた私でしたが、教員の経験を活かす結果になりました。

そして、このメニューを美郷町の中心部に位置する名水市場湧太郎にてお披露目をする事になりました。専門学校の皆さんが来町し、六郷高校の生徒とともにこのシロップを使ったマドレーヌとチーズケーキを作り、町の関係者にお披露目をするのですが、初めてのことに考えも行動もついていかず右往左往している私に、職員の皆さんが手を貸して下さり、無事に日程を終えることができました。一方では自分の至らなさを思い「このようなイベントは今回限りにしたい」という思いがよぎりましたが、手掛けた事業をそのまま終わらせずに、その後の活動にどう展開していくべきなのかを考えるようになるなど、協力隊の役割を理解する大切な機会となりました。



(ラベンダー園摘み取り小屋にて)



(美郷雪華を使ったカフェメニュー)

4 次の事業展開へ

2年目の事業はさらなる広がりを求め、「美味しい郷 美郷プロジェクト」として美郷町の企業と六郷高校、前年度に引き続き関係人口として関わっていただいている調理師専門学校の協力を得て、美郷町産「紫ラベンダー（濃紫早咲）」を利用した商品開発を企画しました。

今回の特徴は紫ラベンダーを使用することと、ラベンダーをハーブとして活用し、調味料（ビネガー）にしたところです。ドレッシングとしての利用はもちろんですが、料理にそのまま使えるシンプルさが特徴です。ラベンダーを調味料にするという発想は思い切った挑戦です。まだまだ、食品としての利用事例は少ないのですが、香りの豊かなハーブとして、少しずつ浸透、定着できるよう働きかけ続けたいと思います。



(美味しい郷 美郷プロジェクト)

町が期待している「移住コンシェルジュ」としての協力隊の働きと、私の手掛けた独自の事業は関連が薄いかもしれませんが、地域住民にとってあたり前だと思っていることが、他の地域にはない魅力だということは少なくありません。その「あたり前」で「ふつうの事」をUターンした私自身が活用し、人々に情報提供することにより「このままずっと住み続けたい」「今は県外にいるけれどいつかは戻りたい」「時々訪

れて、美郷町でのんびり過ごしたい」「帰省の回数を増やしたい」といった方にとどまらず、「美郷町に移住する」ことを望む方が増えて欲しいと願っているのです。

5 空き家バンクを経験して

さらに、移住定住業務の一つである空き家バンクの受け付けや、ホームページの更新作業をするようになりました。私自身も移住を検討していた時に、民間不動産サイトや自治体の空き家バンクを閲覧していました。最初は慣れない業務に戸惑い、手間取りましたが、空き家バンクの情報が欲しい方や物件を登録したい方への対応を重ねていくうちに、事務手続きも徐々に身につき、物件所有者からのご相談を受ける機会も増えました。美郷町の空き家バンク登録物件数は決して多くはありませんが、掲載すると成約するケースは比較的多いように感じます。町が提供する情報に安心感があるのだと思います。登録を検討している方々も諸事情や個別の考えがありますので、制度や手続きを説明する時や、電話対応の際も相談者の考えを傾聴するようにしています。だからこそ、成約のご報告をいただくと本当に安堵します。お世話になっている不動産屋さん「あなたは、空き家を持つ人と移住したい人、両方の気持ちがわかる人ですね」と言っていたことがありますが、自分では気づかない一面でした。

もちろん移住者を増やすことは簡単ではありません。特に県外出身者が移住することは大きな決断ですし、熱量も資金も必要です。年齢的な特徴や個々が持つ背景、住まい、家族、仕事、健康等の条件がありますが、住む方の考え方によってライフプランが作られていきます。私自身も移住者の一人として、移住者の要望に対応できるコンシェルジュでありたいと考えています。



(おためし移住体験のご案内)

6 活動に導かれて

私のわずか2年余りの経験でも、協力隊活動は人との出会いを生み、その出会いが新たな関係を生みだすことを実感しています。そして、これらの出来事は、私の活動を良い方向に導いてくれています。

《エピソードの紹介》

- ・着任後まもなくの総務省の研修で知り合った他県の協力隊員は、管理栄養士の経験を生かした活動をしており、研修から半年もしないうちに美郷町に来てくださいました。そこで、食を通じた地域の魅力と活性化について情報交換をし、その後の事業展開の参考にすることができました。

- ・Uターンがきっかけで同級生と会う機会が増えました。その中に町の相撲連盟の役員がおり、町民相撲大会の観戦に誘われ、始めて間もない自身のInstagramの取材として伺いました。地域でも大事にされている行事で、これまでの投稿記事の中で閲覧数が最も多いのはこの相撲大会です。私の母校、旧仙南中学校にも相撲部はありましたが、当時はこんなにも関心の高いものだとは思いませんでした。

- ・美郷町内にある知人の実家の畑を使わせてい

ただいています。それまで閉め切っていた家を開ける機会が増え、所有者の悩みの種だった雨漏りが無くなりました。家屋の維持には、通風が大きな役割を持っていることを体験できました。空き家の所有者にバンク登録を紹介するときも事例としてお話ししています。

こうしてみると、これらの出会いという「点」は関係を生み、「線」になっていきます。やがて広がりを感じられる「面」にできたら素敵だと思います。

7 退任後へのプロローグ

さて、任期が1年足らずになった私は、現在退任後の生活のために、中古物件の購入と活用を検討しています。物件の条件が合えば、美郷町を訪れた方が住まいを拠点にして、町ならではの食材と一緒に料理したり、町の観光情報を提供したり、身近にできるアクティビティを紹介するなどして、美郷町の滞在を楽しみ、リフレッシュできる時間を過ごしていただけたらと思います。特に美郷町の環境や移住に興味がある方には、体験を通して生活の感覚をつかんでいただければと思います。

退任後の美郷町でのライフデザインを描くためにも、協力隊活動を応援し力を貸してくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず、受け入れてくださった町のお役に立てるよう、これからも私らしく仕事に取り組んでまいります。